

コスト構造改革の推進 **BX**

当社グループは中期経営計画において、2025年度に900億円*を削減するという目標を掲げ、定期的に執行役会議等で議論をおこないながら、グループ全体で取組みを推進しております。DX活用やVA活動等による経費・修繕費の削減や、低稼働電源の効率化等による競争力のある電源ポートフォリオの構築、燃料・電力市場取引も含めた電源運用・調達コストの最適化といった、コスト構造改革の推進により、2024年度は870億円*を削減しました。今後も目標達成に向けて、さまざまな取組みをおこなってまいります。

※中期経営計画策定時(2021年3月)の計画値からのコスト削減額

具体的な取組内容

競争力のある電源ポートフォリオの構築

当社は、中長期的な需給状況等の事業環境変化を総合的に勘案し、南港発電所の設備更新や、高経年化した発電設備の廃止を決定しました。また、姫路第一発電所の設備更新に向けた検討を開始しました。今後も事業環境変化を見極めながら、競争力のある電源ポートフォリオの構築をおこなってまいります。

【電源ポートフォリオの見直し】

(設備更新) ●南港発電所1、2、3号機

既存設備を廃止(2025年3月31日)し、高効率コンバインドサイクル機への設備更新を推進(2030年度運転開始予定)

●姫路第一発電所

高効率コンバインドサイクル機への設備更新に向けた検討を開始

(廃止) ●赤穂発電所1、2号機(2025年7月31日)

●関西国際空港エネルギーセンター1、2号機(2026年3月31日)



南港発電所※設備更新後、完成予想図



姫路第一発電所

DX活用や点検頻度見直しによる設備保全業務の効率化

当社は、水力発電用ダムの放流設備(洪水吐ゲート用ワイヤーロープ)における水中部点検について、これまでは潜水士による目視点検により評価していましたが、水中ドローンを活用した目視点検とAE(アコースティックエミッション)を用いた計測を新たに導入しています。また、水圧鉄管等の設備点検については、過去より定期的を実施してきた点検結果を分析し劣化傾向を把握することで点検頻度を見直しました。これらの取組みにより、安全性を向上させるとともに、設備保全業務を効率化し、点検費用の削減を実現しました。

バリューアナリシス活動

バリューアナリシスとは、各事業部門の経費・修繕・設備投資に対して、当社の調達部門と各事業部門のみならず、取引先様含めさまざまな関係者と計画段階から連携することで、サプライチェーン上のあらゆる視点から効率化を検討する取組みです。

例えば、調達する資機材や請負工事等において、本来の機能や目的に着目して原価構造の分析等をおこない、さまざまな視点でアイデアを出しながら検討を進めることで、仕様、工程・プロセス、調達方法の見直し等を実施し無駄を省いてコストの最適化を実現しています。

コスト低減の視点

戦略視点	切り口の例	具体事例
仕様を変更する	数量を変える	必要最小限の工数に精査
	品質レベルを変える	過剰な要求仕様の軽減
	方式を変える	事業所間や他社との仕様統一
	特殊品を汎用品に変える	汎用化により競争発注拡大
	ライフサイクルコストを最適化する	ライフサイクル全体でのコスト評価・最適化
工程・プロセスを変更する	工法を変える	簡易工法、工期短縮
	対象範囲を変える	材工分離、設計施工一体化
	実施時期を変える	需要集中・高価格時期の回避
	要求レベルを変える	過剰要求品質、取引先認定級の緩和
調達の方法を変更する	買い方を変える	まとめ発注、共同調達、複数年契約
	サプライヤーの競争環境を変える	競争化、サードパーティ、国際調達
	サプライヤーとコスト低減を連携する	協働による原価低減活動
	サプライチェーンを最適化する	請求元グループ会社内販-外部調達の最適化